



平成30年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金

活動事例集



目次

第1章 森林整備等による地域活性化の事例

1. 森林の利活用によるにぎわい・交流4
2. 森林のめぐみによる地域の活性化6
3. 森林に関わる教育・自然体験8
4. 生物多様性保全8
5. 災害に強い森づくり9

第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例

1. 活動仲間集めの工夫10
2. 活動メンバーの意識向上・スキルアップ12
3. 新たな資金源の獲得14
4. 他団体との連携強化、情報・ノウハウ共有16
5. 専門家や企業との連携による活動の発展17



掲載団体一覧

活動団体名	活動所在地		交付金タイプ					掲載ページ
	都道府県	市町村	里山	竹林	資源	機能	教育	
西根森づくりの会	山形県	長井市	●		●		●	8,12
認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会	茨城県	土浦市	●	●			●	8,10,17
南草津里山クラブ	群馬県	吾妻郡草津町	●		●			6
松戸里やま応援団 樹人の会	千葉県	松戸市		●				4,10
一般社団法人もりびと	千葉県	長生郡長南町	●				●	13,15,17
天竜川鷲流峡復活プロジェクト	長野県	飯田市		●			●	11,14
森林資源活用フォーラム	岐阜県	高山市		●	●			15
NPO法人丹波グリーンパートナー	兵庫県	丹波市	●		●		●	7,9
尾捨山森林クラブ	和歌山県	東牟婁郡那智勝浦町	●	●			●	9,11
フォレストセーバー「正人どんの郷」	福岡県	嘉麻市	●	●	●	●	●	5,12,16
下毛の里自伐型林業研究会 小川内地区活動組織	大分県	中津市	●				●	5,13
屋形原の森を育てる会	宮崎県	延岡市	●				● ●	16
尾前里山保全の会	宮崎県	東臼杵郡椎葉村		●	●		●	6

交付金タイプ凡例

地域環境保全(里山林保全)



地域環境保全(侵入竹・竹林整備)



森林資源利用



森林機能強化



教育・研修活動



第1章 森林整備等による地域活性化の事例

全国の様々な活動組織が実施する、地域の里山林の自然を活かし、地域の活性化につながる取組を紹介します。



1. 森林の利活用によるにぎわい・交流

森林を整備し、住民が集う、楽しむ場として活用

松戸里やま応援団 樹人の会（千葉県）竹

活動組織は、市が毎年度開講する「里山ボランティア入門講座」の修了生で構成されています。都市開発によって残存した市内の里山林の荒廃が進んでおり、「野うさぎの森」を整備することで、森林動植物の生息地の維持と市民が自然を楽しむ森づくりを行っています。

当会は松戸市主催の「オープンフォレスト」において、保全林の紹介等を行ったことで、活動が市民に理解され、新たな会員の活動への参画にもつながっています。



オープンフォレスト開催の様子



森林が整備されたことで、地域の交流も生まれつつあります。活動対象の竹林で七夕竹の伐り出しを行ったことをきっかけに、地域のお母さんたちのグループ「読書応援団」との交流が生まれ、「読書応援団」は整備した森林を活動拠点として利用し始めました。林内は活動のための話し合いの場や本について語り合う「森でのブックトーク」の場として利用されています。



お母さんたちによる「森のブックトーク」



森林整備前



森林整備後

かつて子供が遊びまわった里山林を、地域の力で再生

フォレストセーバー「正人どんの郷」(福岡県)

里

竹

資

機

教

活動組織は、上西郷久吉地区の隣組単位30戸で構成されています。荒廃した森林、竹林を、子供たちの活動できるフィールドとして再生させるため、荒廃竹林の整備と、伐採した竹の有効活用を行っています。これまでの活動によって再生された里山林では、子供が自分たちで里山林に入って遊ぶようになりました。

交付金外活動として、ツリークライミングや森林ヨガ等のイベントを開催し、普段里山林に入ることのなかった人たちが里山林を大切に、守る活動のきっかけになりました。



竹林での粉碎作業

集落の山林からの薪で、地域住民と都市住民をつなぐ

下毛の里自伐型林業研究会小川内地区活動組織(大分県)

里

機

活動組織は、地区在住者、Uターン者・Iターン者で構成されています。先祖代々守り続けてきた集落の山林が荒廃していることから、除伐・間伐を行い薪材として搬出しています。

「薪交流会」を開催し、間伐した木材を近隣の広場で薪材用に配布・販売を行っています。都市部に居住している薪ストーブ所有者も多く参加しており、山林に対する興味・関心を高める、意識啓発の要素を持ったイベントになっています。



薪交流会の様子

2. 森林のめぐみによる地域の活性化

森林整備によって地域外から人を呼び込む

尾前里山保全の会（宮崎県）

竹

資

教

活動組織は、主に地元住民（林業関係者など）で構成されており、地域の荒廃した竹林・広葉樹林の整備を行っています。森林整備と観光整備を2本の柱とすることで、活動の継続・発展に繋がっています。

整備した森林に観光協会のスタッフを招き、森林や林内で発見された洞窟を案内したことをきっかけに、SNSや新聞・テレビで「奥椎葉のパワースポット」として紹介され、地域内外から人が集まるようになりました。



整備森林内での訪問者の受入れ

交付金外活動として森林内にツリーハウスや屋外ステージも設置しました。これらの利用を目的とした訪問者も多く集まるようになりました。

椎葉村観光協会では、チラシ・ホームページ等を通じて、整備した森林「トム・ソーヤの森」での体験イベントを積極的にPRしています。椎葉村地域振興課との連携も進めており、地域外からも人がさらに集まるような取組を進めています。

林産材をクッキング用薪材や、木工クラフトで活用

南草津里山クラブ（群馬県）

里

資

活動組織は、主に都会から活動地域に移住したメンバーで構成されています。森林所有者が管理できなくなった森林を協力して除伐・間伐を行っています。

森林資源利用タイプでは、林床にある除伐材や、必要な材を伐り出し、どんぐりなどの林産物を採取し、近隣のテーマパークで（一社）孺恋軽井沢自然倶楽部が行う薪割り体験やクッキング教室の薪燃料、木工クラフトの材料として有償で提供し、活用しています。



薪割り体験での材の利用

「木の駅プロジェクト」を通じた森林再生の取組

NPO法人丹波グリーンパートナー（兵庫県）



活動組織は、NPOのメンバーと各対象地近隣の有志で構成されています。整備活動は丹波市木の駅プロジェクトとも連携して行っており、市内各地域の自治会有志、退職後のUターン者・Iターン者、兼業農家の方々とともにを行っています。

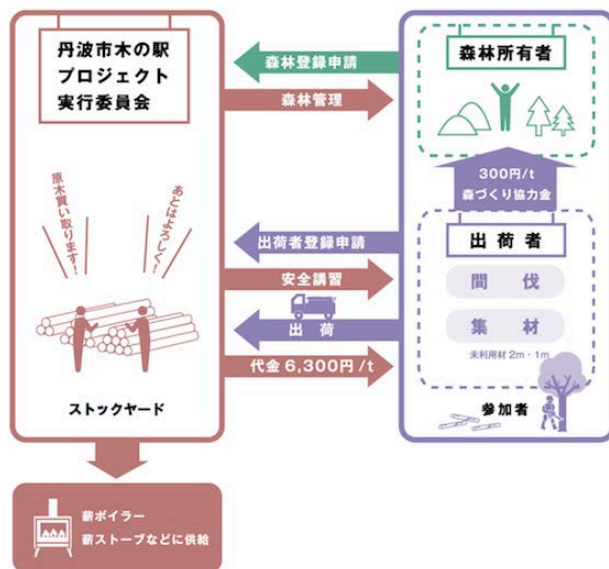
交付金を活用して、地域住民主体の森林整備活動を進めています。また、地域住民による森林整備を安全に進めるため、安全教育、技能訓練等を実施しています。

その他、森林所有者を含む兵庫県民への教育の場となる”教育の森”設置のための森林整備も行っています。

「木の駅プロジェクト」との連携を通じて、住民が森林に関わるための仕組みを作り、放置された人工林を転換し、生産、生活利用、空間利用できる地域の望む森を作ることを目指しています。

また、整備活動から出た間伐材、林地残材を、薪として地域でのエネルギー利用を進めることで、エネルギーの地産地消、小規模地域での循環型社会構築を目指しています。

丹波市木の駅プロジェクトは実行委員会に所属するメンバーとともに森林整備を進め、薪材を搬出しています。現在、約100名の出荷登録者がいますが、より多くの方が安全に森林整備と薪出荷に関われるように、新規登録者に対する安全教育（安全教育、チェーンソー講習等）を徹底して行っています。



木の駅プロジェクトの仕組み

丹波市木の駅プロジェクトは、全国の既存の木の駅プロジェクトの良い例を参考に、2016年より市とともに設立し活動を開始した市民参加型で森林整備を進める仕組みです。

山の木を伐採し、集材、ストックヤードに出荷すれば、NPOが買い取ります。集まった材を薪に加工し、薪ボイラーや薪ストーブの燃料として循環させます。

(資料) 丹波市木の駅実行委員会



木の駅への薪出荷の様子

3. 森林に関わる教育・自然体験

大学生のフィールドワークで森林整備の体験

西根森づくりの会（山形県）

里 資 教

活動組織は、長井市大字勸進代地区の住民を中心に、幅広い職歴・年代のメンバーで構成されています。交付金を活用して、自治組織「勸進代区」の共有地である山林を整備しています。

大正大学の学生の研修受入れを行っており、農業や地域との関わり等についての座学、山林散策、人工林観察、枝打ち・玉切り・チェーンソー体験等のフィールドワークを実施しています。学生に興味を持ってもらうためにはインパクトが重要と考え、強烈な思い出を作ることに留意しています。また、対象地域が最上川の源流域であることから、川の水質保全にとっての森づくりの重要性も伝えています。



大学生によるフィールドワークの様子

4. 生物多様性保全

里山生態系と歴史・文化の保全、継承

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会（茨城県）

里 竹 教

活動組織は、土浦市、つくば市近郊の住民を中心に、全国各地の会員で構成されています。活動地である「宍塚の里」は、環境省モニタリング1000に登録された、里山の生物にとって重要な生息環境となっています。

交付金を活用して、蝶が飛び交う森の整備を行い、毎週の「土曜日観察会」や担当者による蝶の調査を実施しています。

当会では、聞き書き等を通じて地元住民との関係性を作り、市役所等との意見交換をし、地元と行政の立場それぞれを大切にしながら、里山（自然と農）の保全活動の継続・充実化を実現してきました。



下草の刈払いの様子

シカの食害対策のための森林整備

尾捨山森林クラブ（和歌山県）

里 竹 教

活動組織は、代表を中心に、地域への移住者、鳥羽山林業のメンバーで構成されています。活動地域の地区と連携して獣害対策のための森林整備活動を行っています。

シカの食害により林内の植物や周辺の農作物に大きな被害が発生していました。活動によって下刈りや除伐、間伐が進んだことによりシカの隠れ場所がなくなり、食害は軽減しています。林内は、シカの好まない植物のみとなり生物多様性が失われていましたが、森林整備によって林内に生育する植物も戻ってきています。

また、獣害対策用に購入したネットの設置を地区の住民と連携して行っています。



除伐・間伐作業の様子

5. 災害に強い森づくり

災害に強い森の整備と、防災意識の啓発活動

NPO法人丹波グリーンパートナー（再掲）

里 資 教

2014年に丹波市市島町を中心に発生した記録的な豪雨により、多数の斜面崩壊が起こり、土砂の流出により山裾の住宅や集落、農地に多大な被害をもたらしました。

当組織では、豪雨で崩れた山林の復旧作業を行うとともに、対象地域の各林分に対して、防災、植生等の観点から調査を行い、調査結果に基づいて、残材や土砂の流出を防ぐ災害に強い森づくりへの整備方針と実施計画を策定しています。

学校やNGO等の視察を多く受け入れており、そのような機会を活かして、防災における森林整備の重要性を発信しています。



活動対象の森林の様子

第2章 継続的な活動実現に向けた自立化の事例

活動のステップアップや森林整備活動の継続につながる、全国の活動組織の取組や工夫を紹介します。



1. 活動仲間集めの工夫

継続的な会報発行、行政・学校との連携

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会(再掲)

里 竹 教



会報「宍塚大池のお知らせ」

当会では会報「宍塚大池のお知らせ」を毎月発行し、2019年1月で創刊以来350号を迎えます。地域住民や茨城県、土浦市の各部署及び議員等にも会報を配布し、地域住民や行政に活動を理解してもらい、里山体験活動への参加を促しています。

会報作成にあたっては、理事も参加する運営会議を月1回開催し、会報の内容を決めています。編集、印刷、袋詰め各担当の会員が毎月7~8名集まり、協力しあって作成・発送しています。

当初は会員が自ら各小学校に直接配布していましたが、市教育委員会のポストを利用させてもらうこととなり、土浦市・つくば市の小学校に毎月1万4000枚を配布しています。

会報には、子供向けのイベント情報(月例テーマ観察会や里山こども探偵団)を掲載し、小学生とその親が家族ぐるみで活動に参加するように案内しています。

子育て世代へ配慮した森林整備

松戸里やま応援団 樹人の会 (再掲) 竹

当会が活動する地域では、高齢化が進む中、マンション開発により子育て世代が増えていることから、子育て世代を対象に、活動への参加を呼び掛けています。

具体的には、近隣のマンションや保育所に活動内容を記したチラシを配布したり、年1回開催する「オープンフォレスト」の来訪者に活動の意義や内容を説明したりすることで、入会を勧めています。

また、イベント開催にあたっては、市の支所を通じたチラシ配布や、他の自然保護団体、地域新聞「リビング」を通じて告知を行っています。

森林内には竹柵を設置するなど、子育て世代にも森林を安全に楽しめるように工夫しています。

野うさぎの森 によろこび!! 2017.09.08

この森は地権者さんの熱意を帯びて《松戸市若菜郡 樹人の会》が保全活動をしています

- 保全活動の目的
 - ・ 鹿に、森に生息する小動物や植物の豊かな生態系としての森を維持します。
 - ・ 近隣住民の方々に親しまれ、自然を楽しめることが出来る森として保全します。
- 活動ボランティア
 - 活動場所は、「2014年度 里やまボランティア入門講座」の受講者(12名)が2015年2月4日(水)に結成した「樹人(Cow-ri)」の協力で、活動拠としての「野うさぎの森」が決定後、2015年10月21日(水)に当日の参加者全員で森の整備を行ったのが活動の始まりです。活動日は14名(2017年9月1日現在)、活動回数は第1水曜日・第3水曜日・第4日曜日の朝10時からです。
- 森の概要
 - 「野うさぎの森」は、北茨城(北相馬郡松戸町)、栗原市(秋田県)に所在する「野うさぎの森」に隣り、西側を流れる「川」に囲まれた公園に隣接し、栗原市から徒歩15分の広さ 約1.8haの民有地の森です。「シンボルの木」は樹齢73cmの「クスノキ」です。
 - ◎ 森の住所：松戸市結城3丁目5番地、6番地、7番地の1~4
- 森の整備状況
 - ※ 竹柵の設置
- 竹柵の設置
 - 竹柵の設置、参加していませんか

■ 森に関するお問い合わせは、事務局・山田(Mark0901h@zao-net.ne.jp)までお問い合わせください。

新聞やSNSによる地域外への参加呼びかけ

天竜川鷲流峡復活プロジェクト(長野県)

竹 教



Facebookによる活動発信

活動組織は、主に飯田市竜丘地域自治会と信南交通(株)地域観光事業部を中心に構成されています。放置竹林の伐採・伐採した竹の搬出作業、搬出した竹を利用した教育研修活動(竹いかだ作りなど)を展開しています。

竜丘地区内では募集チラシを配布して周知し、地域外には新聞社等へプレスリリースを行い、活動への参加を呼びかけました。

また、SNS (Facebook) により、毎回の活動の様子・雰囲気や文章や写真で発信しています。

現在、参加登録者は40人(うち23人が地域内、17人が地域外)となっています。

地域のつながり、組織との関わりを活かした活動

尾捨山森林クラブ (再掲)

里 竹 教

活動組織の代表が地域のお寺の住職を務めており、お寺の会報を通じて森林所有者と連携することができました。

当初、少人数で活動を開始しましたが、「地元を良くしたい」と考える人が徐々に集まり活動人数が増えています。特にチェーンソー講習会を開催することにより、個人で活動していた人たちをつなぎ合わせることができました。

活動を継続することで、近隣の森林所有者からも声が掛かるようになり、活動の場が広がっています。



チェーンソー講習会の様子

2. 活動メンバーの意識向上・スキルアップ

竹林整備における安全管理の徹底

フォレストセーバー「正人どんの郷」(再掲)

里

竹

資

機

教

森林整備の初心者を対象に、チェーンソーや刈払機の使い方に関する講習会を行っています。県主催の研修会の内容を噛み砕いて伝達することが主な内容となっています。

参加者の募集は、口コミが主な方法となっています。

講習は森林組合の有識者の協力を得て、実施しています。安全チャップスの装着といった安全装備の徹底、竹を取り扱う場合の周りへの配慮事項や、竹を効率的に倒す方法などを参加者に学んでもらっています。活動内容に即した安全の基本を学ぶことで、初心者であっても安全に活動に参加することが可能となっています。



竹林伐採作業の様子

チェーンソーのメンテナンス技術の向上

西根森づくりの会(再掲)

里

資

教

本地域では、庭木の管理や薪ストーブの薪割りのために、多くの家庭がチェーンソーを所有しており、メンテナンス方法を知りたいと感じている人が多くいます。

西根森づくりの会では、安全にチェーンソーを扱うためには正しいメンテナンス方法を身に着けることが重要と考え、会員と地域住民を対象に、メンテナンスを中心としたチェーンソー研修を実施しています。伐採業者を講師として招き、プロの技術を伝授していただいています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

座学でメンテナンス方法について学んだ後、実際にメンテナンスを行います。メンテナンスしたチェーンソーを使って玉切りを実施し、メンテナンスの重要性について理解します。



チェーンソーのメンテナンスを学ぶ参加者

自伐型林業を進めるための作業道整備方法の習得

下毛の里自伐型林業研究会小川内地区活動組織（再掲）

里

機

県などが主催する安全講習を受けた方（森林整備活動の初心者）を対象に、作業道の整備、チェーンソーの使用法の講習を行っています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

講習では、ミニバックホー等の小型機器を利用し、作業を効率的にするため作業道の敷設方法についても指導を行っています。

参加者を増やすための工夫として、作業の楽しさを感じてもらうことを意識して講習を行っています。また、間伐や伐採によって「どんな山を目指したい」のか考えてもらうことも大切にしています。



活動森林内で整備された森林作業道

危険木の伐倒技術の向上

一般社団法人もりびと(千葉県)

里

教

県などが主催する安全講習を受けた方（森林整備活動の初心者）を対象に、人工林や広葉樹林の伐倒方法の講習を行っています。

参加者の募集は、知り合いなどを通じた口コミが主となっています。

参加者が木を倒す方向と木の倒し方を体験して理解に繋げることが重要であると考えており、実際に伐倒を体験してもらっています。

座学だけでは学べない現場の空気を体感してもらい、より実践に近い講習にすることで、参加者の増加に繋がっています。



伐倒方法の講習会の様子

3. 新たな資金源の獲得

竹林整備とメンマの製造・販売の取組

天竜川鷲流峡復活プロジェクト(再掲)

竹 教

当プロジェクトでは、鷲流峡4.5haの放置竹林の整備を行っています。活動3年目から竹資源の活用、竹林整備後の維持管理、活動資金の確保という視点から、国産メンマの製造、販売に取り組んでいます。

当初は地元の食品加工グループと連携してメンマの試作等に取り組み、製造・販売を行いました。現在では2つの食品企業「(有)あちの里」、「丸昌稲垣(株)」に製造を委託し、当プロジェクトが販売を行っています。

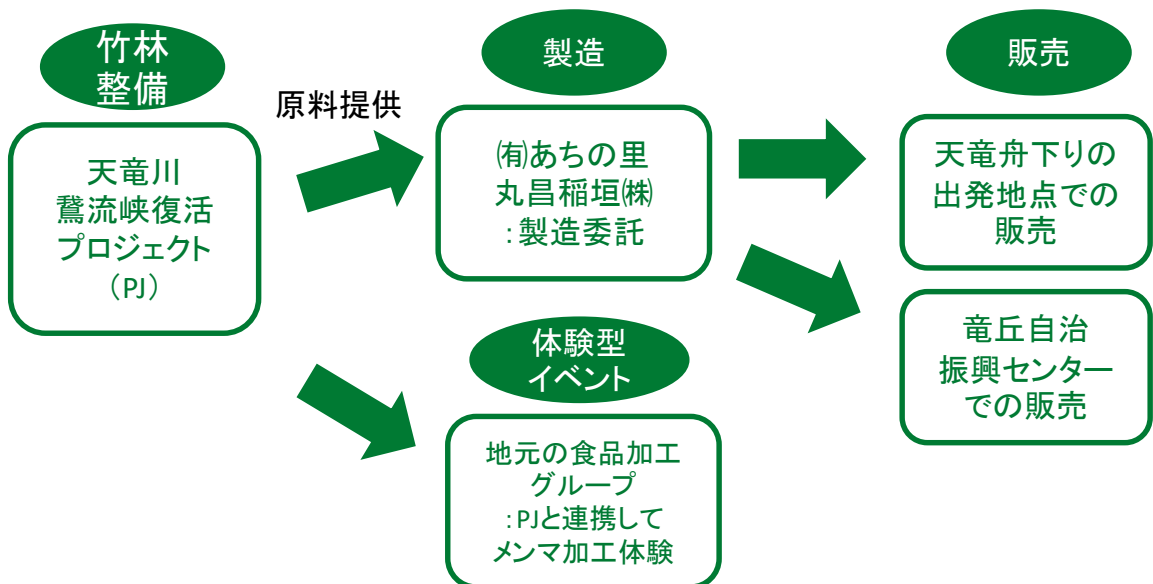
当プロジェクトの代表と事務局が中心となり、商品のマーケティングを行っています。



竹林整備の様子



メンマ作りの様子



竹林整備～メンマの製造・販売までの体制図

林地残材を活用したアロマ生産・販売

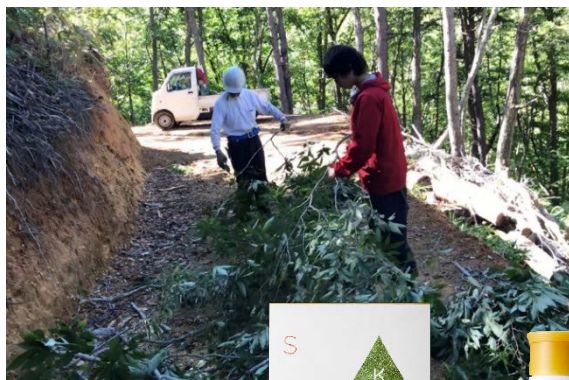
森林資源活用フォーラム(岐阜県)

竹 資

活動組織は、正プラス株式会社、株式会社パルステクノロジー、森林たくみ塾のメンバーで構成されています。天然林を整備し、未利用材をアロマオイル等の材料として活用しています。

活動対象地には、30年近く手入れされていない森林があり、林床にはササ類が繁茂していました。交付金を活用し、整備を進めることでアロマオイル等の材料となる木がよく生育する森林となりました。

団体のメンバーである正プラス株式会社が、アロマオイルの製造、商品開発、販売を手掛けています。地域に生育している樹種の中から13品目を選定し、アロマオイルを製造しています。アロマオイル等の販売による収益は地域の活性化にも貢献しています。



採取活動の様子



開発したアロマ製品

間伐材等の有効活用

活動組織は、移住者や地元住民など、幅広い職歴・年代で構成されています。活動組織の代表がこれまで培ってきたつながりを通じて、様々な林産物を販売しています。

木や天然素材の手作り品キットは、地域の手作り市に出店するクラフト作家さんと連携して販売を行っています。

竹炭うどんは、活用先の乏しい竹を収益化するために開発したもので、竹粉の精製から製麺までの様々な点について専門業者とともに工夫をこらし、商品化につなげました。

若い人たちが地域の森林整備を行っていく上で、ボランティアだけでは続けていくことはできないため、収益化を意識した組織の運営を行っています。

一般社団法人もりびと(再掲)

里 教



森林整備作業の様子



竹炭うどんと石けん

販売用の木工クラフト

4. 他団体との連携強化、情報・ノウハウ共有

他団体との交流によるスキルアップ・情報共有

屋形原の森を育てる会(宮崎県)

里 機 教

活動組織は、母体となる延岡自伐型林業研究会の会員を中心に構成されています。屋形原(やかたばる)の森を育てる会の名称で約7ヘクタールの山林で自伐型林業の研修、普及を行っています。

自伐型林業推進協会の講師から指導を受けており、全国から自伐型林業に関する情報を入手しています。

自伐型林業を進めている九州地方の他団体と、ブログを経由して連絡を取りあい、研修会に参加したことをきっかけに、交流が生まれました。年2回ほど研修会に参加して進捗を共有し刺激を受けています。

他の自伐型林業研究会とも連携し、作業技術や、林業経営、当交付金の活用方法、資機材の調達方法などの情報やノウハウを共有することで、スキルアップが可能となっています。



作業道路整備研修「木組み補強」の様子

県外の活動組織に活動・フィールド紹介

フォレストセーバー「正人どんの郷」(再掲)

里 竹 資 機 教

当組織では、長崎森林・山村対策協議会が主催する、県外の活動組織との交流会の受入れを行いました。20~30名程度の活動家が整備した森林に来訪し、森林整備の内容や技術的な方法について意見交換を行いました。

活動やフィールドの紹介を行ったことで、他活動組織との連携が取れるようになりました。



県外活動交流会の様子

5. 専門家や企業との連携による活動の発展

森林インストラクターや宿泊施設と連携した自然観察会

一般社団法人もりびと（再掲）

里 教

整備された森林に地域内外から人が集まるように自然観察会を開催しています。小学生や家族連れ、大学生、高齢者など様々な方々が参加しており、参加者には里山や森林整備を身近に感じてもらっています。

自然観察会では、都市部では見られない昆虫を観察するために森林インストラクターと連携したり、遠方からの来訪者向けに近隣の廃校を利用した宿泊施設と連携したりするなど、活動組織以外の方とも連携を深めながらイベントを開催しています。

このような連携により、地域の魅力の発信や提供できる観察会の幅が広がりました。また、会員も森の多様な見方ができるようになり、大きな効果を得ています。



自然観察会の様子

企業CSRと連携しての里山保全

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会（再掲）

里 竹 教

当会では企業のCSR活動と連携した里山保全を十数年間実施しています。

現在の連携先との関係は、企業の担当者が会のホームページを通して活動内容を知り、会に連絡を頂いたことから始まりました。

会の中心となって活動している「里山さわやか隊」が、場所や資機材をコーディネートし、連携企業の社員を受け入れて草刈等の里山保全活動を行っています。

企業との連携によって、会には森林整備が進むことや、活動への理解が深まるといったメリットが生まれています。企業にとっては地域との信頼関係の構築に役立っています。



企業と共同で実施する里山保全活動



林野庁

平成31年3月